

## 曼荼羅～その神秘と可能性

天 野 紳 一

### 1 曼荼羅とは？

最近書店を訪れると、入り口近くのけっこう目立つ場所に様々な種類の曼荼羅本が山積みになっているのを見かけます。しかもそのほとんどが画集やアート本ではなく、塗り絵やスクラッチなど、自分でつくるタイプの本なのです。少し前に一世を風靡した大人の塗り絵同様、曼荼羅も癒やしを求める現代人の間で大きなブームとなっています。ではそもそも曼荼羅とはどのようなもので、何を意味するのか。その名もずばり『マンダラ塗り絵 (COLORING MANDARAS)』(スザンヌ・F・フィンチャー著、正木晃訳)という本の中で著者は次のように解説しています。

人間には誰しも、「自分とはなにか」「宇宙のどこにいるのか」を知りたいという衝動があります。そんな衝動からはぐくまれてきた円形の聖なる図形、それがマンダラです。マンダラというのはサンスクリット語で、マンダが「本質」を、「ラ」が「容器」をそれぞれ意味しているともいわれています。そして、マンダラが表現しているのは完璧さであり、私たち自身が全体でもあれば個でもあるという、そういう体験にみちびいてくれます。また、マンダラの子宮によく似た構造は、安心感や保護されているといった感覚をあたえてくれます。同時に、マンダラは、宇宙そして人間の複雑きわまりないリズムから、人間にとって扱いやすく、わかりやすいパターンをかもしだしてくれるのです。つまり、私たち一人ひとりの個性をきわだたせ、また言葉にはできないさまざまな神秘とかかわる機会をあたえて、私たちの生を充実させてくれる図形...それこそがマンダラなのです。

「マンダ・ラ＝本質を収める容器」と聞くと、我々が根源的に曼荼羅を欲し、癒やされる理由が理解できるような気がします。ただ、いわゆる宗教的な「曼陀羅」には何となく畏敬の念が付きまとい、拝むものではあっても自分で描く対象ではありませんでした。

### 2 曼荼羅を描きたい！

私が図工の授業における表現の対象として曼荼羅に強く惹かれたのは、『ちびまる子ちゃん』でおなじみのさくらももこさんの描いた曼荼羅に出会ったのがきっかけです。アニメのタイトルバックや、COJI-COJIなどの絵本にたびたび登場するさくらさんの曼荼羅はカラフルで分かりやすく、ただひたすらに楽しいのです。きっとこれを描いている時のさくらさんの頭の中では、きっと次から次へと連鎖するように発想が生まれているはずです。(子どもたちがこんな風に自由に夢を表現し、空想の世界に耽ることができたらどんなに素敵だろう！)

### 3 曼荼羅の構図はエネルギーに満ちている

曼荼羅の構図がもつ原則的な特徴は、「対称性」と「回転性」です。「対称性」は調和や

秩序を生み出し、「回転性」は求心力やエネルギーを表現します。このような構図の特徴自体が発想を生み出し、それを連鎖させる効果を持つと考えました。

曼荼羅にはまるで台風の目のように明確な中心が存在します。そこから外に向かって拡散していくと捉えるのか、中心に向かって集中していくと捉えるのか、その見方や感じ方は子どもたち一人一人に委ねられるでしょう。しかしいずれにしても、曼荼羅に出会った子どもたちは必ず構図の中心を意識し、じっと見つめることになるはずで、そこに何を描くのか、あるいはどのような色を与えるのか、それが発想の第一歩です。あとは曼荼羅の構図が供給し続けるエネルギーに自然に思考を委ねれば、次々と新たな発想が生まれてくるはずで、たとえ一つ一つの発想が拡散的で無秩序であったとしても、最終的にはマンダラの構図の対称性がそこに秩序と調和を与えてくれるのです。このようにして出来上がった作品は、そのまま一人一人の発想のプロセスを映し出す鏡とも言えるでしょう。

#### 4 子どもたちの曼荼羅（6年生の作品より）

それでは、子どもたちが描いた曼荼羅作品をいくつか紹介してみましょう。冒頭で紹介したフィンチャーさんの曼荼羅構図をもとにして描かれた作品たちです。



もともになった曼荼羅デザインの特徴を生かしながらも、そこから発想した自分なりのモチーフを付け加えて全く新しい世界観をつくりだしたものの。構図の対象性（特に点対称）に注目し、それを規則正しく色分けすることでシンプルながらも完璧な調和をもった美しい模様を描きだしたものの。何を描くか思い付かないままに色塗りをしているうちに、構図の中に新たな形を見出し、それを際立たせる配色をしてできあがったもの。構図の中心に描いたモチーフを発展させることで、自分なりの主題を表現したもの。

曼荼羅の構図がもつ不思議なエネルギーもさることながら、それをどんどん自分の表現に変えていく子どもたちの発想の豊かさに、改めて驚きを感じます。

#### 【参考文献】

『COLORING MANDARAS』2005、スザンヌ・F・フィンチャー著、正木晃訳、春秋社刊

## 1 見えないものが見えてくる

昨秋、図工の授業で「見えないものが見えてくる」という美術鑑賞の授業を行いました。美術作品を見て感じとったことをオノマトペ（擬態語や擬音語など）だけで表現し、作品を背負っている本人に伝えるゲーム形式の鑑賞活動です。背中作品を本人は見ることができませんね。材料はパウル・クレーの半抽象的な作品、8種類×4枚です。ブラインド・ゲームの要領で行います。8種類のどの作品を背負っているか分かりませんから、友だちが伝えてくれるオノマトペだけが唯一の手がかりになります。子どもたちは自分が背負っている作品を知りたくてうずうず。自然と想像力を働かせ、「多分、ぼくの背中のはこんな感じだ。」「明るく跳ねる感じだと思う。」「もしかしたら動物がいるんじゃないかな。」など作品世界に入り込んでいきます。作品をぴったり言い当てるオノマトペに出会えることもあれば、自分の感じ方と違ってオノマトペがピンとこないこともあります。簡単そうで難しい？いや、難しそうで簡単な？アートゲーム。当たっても当たらなくても、子どもたちは楽しいそうです。

オノマトペで作品を伝え合う学習の後、今度は自分が背負っていた作品についてふりかえりを行いました。そして、自分の作品に改めてタイトルをつけたり、オノマトペを入れて三行詩に表したりしました。

## 2 伝えにくい時こそ、オノマトペ

今年も、オノマトペは様々な場で活躍しました。「パリッ フワッ ニコッ おいしい音がする。」これは、食パンのCMです。「ズビッ ズビズビズズビ…」これは、鼻風邪の薬のCM。もしかするとご存じの方もおられるかもしれません。

食パンの食感や触感、食べた後のにっこり笑顔。「ズビッ。」という表現を聞くと、鼻の風邪なのか咳の風邪なのかしっかりと伝わってきます。鼻風邪ですね。他にも「チクチク」「ズキンズキン」など体の痛みという自分にしか分からない痛みを伝えるのにも便利そうです。五感で感じたものや、個人が頭の中でイメージしたものを表現するのにオノマトペはぴったりの方法なので、子どもたちにも使い慣れて欲しいと思ったのです。✧

### 3 「ぬっ！」を、描ける？描けない？

2年生の子どもたちは柔軟な思考の持ち主です。一見ただけでは理解しにくいパウル・クレーの作品を、友だちからのオノマトペを手がかりにかなりの確率で言い当てました。

子どもたちが好きな作家の一人に五味太郎さんという方がいます。『五味太郎のらくがき絵本』の中から1ページを選び、7分間の設定で自由に描いてもらいました。「ぬっ！」というオノマトペに合う絵を描こうというお題でした。もし、皆様なら、「ぬっ！」と聞いたら、どんな絵を描きますか？

子どもたちは「思い付いた！」と言って画面に向かい、7分間で色までつけ終わりました。早く描き終わった児童からは「裏にもう一つ描きました。」の声。次々に湧き上がる児童の発想力を頼もしく思いました。金田一氏の分類によれば、オノマトペは擬声語・擬音語・擬態語・擬容語・擬情語に分けられます。32人の表現を合わせてみると、図3に示したように、自然と金田一氏の挙げた全ての表現を網羅していました。

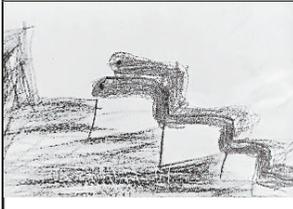
二匹の蛇が話している声 (擬声語)	濡れた手で鉄の 物をこする音 (擬音語)	お風呂のお湯の 感じ(擬態語)	忍者が姿を現す 様子(擬容語)	椅子にぶつかり 怒っている時の 気持ち(擬情語)
				

図3 「ぬっ！」からイメージして子どもたちが描いた絵

### 4 イメージ力で、次代を生き抜く

先週読んだ雑誌にこんな記事がありました。「アメリカでは、情報収集能力、思考力、判断力、伝達力、質問力を向上させて仕事に役立てるために美術館を訪れるビジネスパーソンが増えている」のだそうです。日本でも先進的な大学と企業が提携して社員研修を行い、「新しい発想」の力を高める動きが出てきています。お正月にすぐろくで使うサイコロ。サイコロを一方向からだけ見ていると、一つの数字しか見えません。しかし違う方向から見れば、いろいろな数字があることに気づきます。一つのサイコロ。新しい道が他にいくつもあることに気づくことは、正解なき時代を生き抜く子どもたちにとって欠かせない思考経験です。

一通りではない表現方法、オノマトペ。答えを一つに絞れないことに不安を感じるのは慣れない初めのうちだけです。サイコロのそれぞれの面に多種多様な答えの可能性が潜んでいることに気づきはじめて子どもたちは、恐れることなくチャレンジするようになっていきます。見えない世界を受け入れ、イメージする力で自分の可能性を広げていって欲しい、ピュアで真剣な子どもたちと接しながら、日々願っています。

#### 【参考文献】

AERA ' 17.12.4, 朝日新聞出版, 2017.

小野正弘「NHKカルチャーラジオ 詩歌を楽しむ オノマトペと詩歌のすてきな関係」NHK出版 2013.  
金田一晴彦、「擬音語・擬態語概説」,『擬音語・擬態語辞典』,浅野鶴子編,角川書店,1978.